

令和5年度幼稚園学校評価（湖陵幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価 評価(点数式)	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価(点数式)		
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	保護者アンケート「子供は、幼稚園に行くのを楽しみにしている。」では、『そう思う68.2(82.1)％ だいたい31.8(17.9)％』という評価をえている。また職員では、『十分81.8％ だいたい18.2％』である。湖陵幼稚園の経営方針に沿った経営を行った成果と考える。今後は、学級経営の改善や学期ごとの振り返りなど工夫していくことが大切である。	4	全体として ・組織的な教育が展開されている。 ・チームワークが素晴らしい。 ・幼児一人一人の発達や実態に合わせて、大切に接しながら教育が行なわれている。 行事について ・地域を大切にしようがばっているのがわかる。 ・発表会、運動会などを見ていると、楽しし、すごいと思う。先生たちの負担を考えると心配になる。 ・地域ではみそ作りの手伝いができる。いつも声をかけて欲しい。 ・運動会や生活発表会では、素晴らしい涙が止まらなかった。感動した。 いも苗植え ・高齢者クラブと一緒にできて良かった。高齢者クラブのメンバーが年々少なくなるが、これからも協力したい。ゲートボールなども一緒にできるとよい。	○園長は、1年間のはじめや各学期のはじめに、経営方針等について理解を図っている。勤務時間が違う面はあるが、全職員が一堂に会した場を設け、説明や協議をするように努力する。 ○担任は年間・学期ごとの保育目当てを立て、学期末に振り返るとともに次学期の目当てを設定したものを管理職まで提出し、計画的にきめ細かな保育を行っている。さらに、この『学級経営記録』を学級に係わる支援員とも共有し、学級のめあてや指導・支援の在り方に更に共通理解を図り、学級の保育を進めてきたことが効果的であった。ぜひ、継続していきたい。 ○特別支援教育の意義や園における目当て等を全職員で共通理解を図る。 ○保護者・関係機関・職員との協議を重ね、保護者に園の信頼を得るためにも、年に3回は、学期始めに保護者と職員・専門家との協議の場を設定して効果的に進めることができたので、今後も継続したい。 ○同和教育を全ての教育活動の基底に据えた教育を行うとともに、進路保障など幼児に係る人権について、講師を招いて職員研修会や園外での研修報告会を行うなどして、より計画的な研修に努め、資質の向上を図りたい。 ○家庭ではできない湖陵幼稚園ならではの特色ある行事・活動を ①湖陵地域のよさを感じとる。 ②季節の移り変わりを感じとる。 ③地域での体験を遊びに取り入れる。 ④地域の人のすばらしさを感じ直す。 ⑤湖陵地域産物・小中の連携等から見直し、『めざす子供像』の体現に向けて取り組みたい。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	保護者アンケート「教職員は一人一人の子供をよく理解し、子供の意欲や自信を引き出す保育を行っている。」では『十分86.4(78.6)％ だいたい9.1(17.9)％』という高評価をえている。また職員でも『十分81.8(75)％ だいたい18.2(25)％』であり、日ごろからの子供一人一人の生活について記録し、職員間で共有し保育に努めた成果だと思う。今後とも生活記録を基にした【子供を語る会】を重視すると共に日々の職員間での情報共有を大切にしていきたい。	4		
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	個別特別な支援を要する園児の保育にあたっては、専門機関や市の担当者との相談機会を増やしたり、保護者との共通理解を図ったりして実践してきた。その成果として子供一人一人は大きく成長し、学級集団の中で認められ、楽しく充実した生活を送っている。しかし、職員評価では『十分54.6(45)％ だいたい45.4(55)％』である。今後は、学期始めと終わりには、保護者と職員、専門家との今後の保育についての共通理解を図る会を設けるなど、より計画的な保育に努める必要がある。	3		
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	職員アンケート「教職員は幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮している」では『十分45.5(58.3)％ だいたい54.6(41.7)％』であるが、「組織的な取組や教職員一人一人の人権意識の高揚、資質の向上を図る」では『十分54.6(36.4)％ だいたい45.5(63.6)％』であり、昨年度よりも上がっている。同和教育をすべての教育活動の基底に据えながら教育を行ってきたことが評価されたと思われる。今後、研修などを通じて、資質の向上を図りたい。そのことが子供たちの保育に活かされるようにしたい。	3		
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	保護者アンケート「子供にとって豊かな体験ができる教育の場や活動が工夫されている。」では『そう思う90.9(74.1)％ だいたい9.1(25.9)％』「幼稚園では、行事や活動が工夫されている。」では『そう思う95.5(81.5)％ だいたい4.5(18.5)％』と、共に高評価を得ている。職員「教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善している」では『十分80(66.7)％ だいたい20(33.3)％』であり、活動・行事への子供なりのめあてをもちたせるなど、意欲的に取り組めるよう努めた成果であると思う。今後は、保護者やご家族、地域の皆さんにも子供たちの成長を実感して頂く機会を増やし、みんなで子供の成長を認める機会を増やしていきたい。また、湖陵幼稚園ならではの取組を増やしていくことも大切である。	4		
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	職員アンケート「近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めている。」では『十分72.7(41.7)％ だいたい27.3(50.0)％ あるいは0(8.3)％』であり、近隣の小学校や保育園との交流活動が復活してきたためと考える。夏休み期間中の保・幼・小・中の研修会は全て有意義であり、湖陵教育に係わる職員の共通理解は図られたと思う。今後は、近所の交流場所(小学校の林)や神西湖周辺での交流を行ってきたい。	3		
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域(未就園児等)との協力関係はできているか。	保護者アンケート「幼稚園と保護者、幼稚園と地域との協力関係ができ、子供に関する相談が気軽にできる雰囲気がある」では『そう思う54.5(74.1)％ だいたい36.4(22.2)％ あるいは4.5(3.7)％ あるいは4.5(0)％』であり、職員は『十分54.6(25)％ だいたい45.5(58.3)％ あるいは0(16.7)％』であった。保護者の「幼稚園からのお知らせ、学級の様子等、必要なことを分かりやすく伝えたい」では『そう思う54.5(70.4)％ だいたい40.9(25.9)％ あるいは4.5(3.7)％』であり、職員は『十分81.8(41.7)％ だいたい18.2(50.0)％ あるいは0(8.3)％』であった。保護者との毎日の情報交換や園の考えなどこまめな情報提供の必要性がある。地域の中ではできる限りの場や支援を提供して頂いたことは保育を行う上で大きな支えであった。未就園児教室は開催について、ちらしや防災無線放送などで知らせたが、参加者が少なく残念だった。今後は町内の行事とも見据えて開催していきたい。	3	○保育園や小学校は近隣にあるので、神西湖周辺での保幼小連携、湖陵小学校や樹木園等を活用した保幼小・幼小交流等、湖陵地域の子育てという視点で活発に行いたい。 ○中学校とは、職場体験や体育祭等での交流を図りたい。	
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	職員評価では『十分81.8(27.3)％ だいたい18.2(72.7)％』であり、高評価である。保育研究会、園内研修会、園外での研修を行ったこともあり、質の高い保育を行うことができた。日々の情報交換や他園での研究会の報告等により新しい視点での見方や考え方を伝え合っていた。今後は、タブレット等のICTの活用により、日々の保育の様子を記録し、全職員で動画を見ながら、その時の保育のあり様について研鑽を深めることを取り入れていくなど工夫しながら取り組んでいきたい。	4	今年度、素晴らしい保育が行われた。研究会では、指導の先生が褒めておられたが、確かに素晴らしいであった。このような幼稚園教育が受けられる環境を一人でも多くの人に知ってもらって、園児が増えないのもったいない。	
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	職員評価では『十分80.0(58.3)％ だいたい20.0(25.0)％ あるいは0(16.7)％』であり、協力し合って園務が進められたのではないかとと思われる。職員会や打ち合わせなど、たくさん時間をかけて共通理解したことも結果につながったのではないだろうか。今後は、綿密な共有を図っていきたい。	4	素晴らしいチームワークだったと思う。そして、そのチームワークに合わせた結果を出している。それが園児の姿となって表れている。	
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	保護者アンケート「園の危機管理及び幼児の安全や衛生管理に向けて、日ごろから適切な対応がとられている」では『そう思う54.5(63.0)％ だいたい40.9(37.0)％』であり、職員では『十分81.8(81.8)％ だいたい18.2(8.3)％ あるいは0(25.0)％』であった。保護者の思いに耳を傾けて改善を図っていく必要がある。	3	今年度、保護者の声から、玄関の鍵を改善したり、門扉を開けたりするなどの改善を行ったが、普段から保護者の感じていることをアンテナを高くして察知して、不安が無いように安全に対する園からの情報発信する。	
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的点検し、必要な改善・管理を行っているか。	保護者アンケート「園の施設・設備は、子供が安全に生活できるように管理されている」では『そう思う63.6(59.3)％ だいたい31.8(37.0)％ あるいは0(3.7)％ あるいは4.5(0)％』であった。職員評価では『そう思う72.7(54.5)％ だいたい27.3(36.3)％ あるいは0(9)％』であった。定期的な安全点検や日々の気づきの中から、多くの改善を図ってきた結果である。保護者の協力を得て園庭整備は十分にできた。	3	施設について ・環境整備は大変だが、定期的に行うしかない。	

※自己評価の評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する